

国会請願に参加して

岐阜支部 高井節子



岐阜県版
第383号
2022年6月15日

治安維持法国際同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7-13
岐阜県教育会館308号室
Tel 058-252-5366
振替00840-2-88638

から始まり今年で四〇年になります。
二〇一八年以来二〇万筆割が続いています。

五月十一日、東海ブロッ
クは、愛知四名、三重二名、
岐阜一名の計七名の参加、
全国からは、二三都道府
県一〇八名が参加しまし
た。

岐阜県の団体署名目標
五五〇に対して一一〇筆
(二〇%)、個人署名目標
一一六〇〇に対して二四
五五筆(二二%)の達成率
でした。団体、個人とも二
〇%台であり、来年に向け
て目標を設定し、今から計
画的に取り組む必要があ
ります。

国会請願は一九七四年

二〇二二年は、八万五六五三人分の署名を、
紹介議員を通じて国会へ提出します。

全体集会では吉田万三副会長が挨拶、日本
共産党宮本岳志、立憲民主党の近藤昭一の
両衆院議員が挨拶されました。

戦時中、治安維持法違反で逮捕された菱
谷良一さんが三年ぶりに北海道旭川市から
参加されました。一〇〇歳とは思えないお元
気な姿に、会場の参加者からは、感動の拍手
で盛り上がりました。菱谷さんが経験した生
活画事件や釈放後に描いた「赤い帽子の自
画像」について語られました。

最後に菱谷さんが「戦争のない平和で自由な
社会が一日でも早く到来することが私の願い、
みなさんにその意志を引き継いでほしい」と声
を詰まらせながら訴えられると、参加者から
大きな拍手が湧きました。

参加者はグループに分かれ、衆・参の各党国
會議員室を訪問、「紹介議員要請文」などを

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法である事
を認めること
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

手渡しました。

行動後の集会では、日本共産党の山添拓参
院議員が挨拶され、緊迫する国際情勢に軍
事に対応しようとする政治の流れを批判し
「治安維持法犠牲者に向き合わず、反省しな
い政治がこういう流れに向わせています。

先輩たちの遺志を受け継ぎ、憲法を生かし
た未来を切り開くために、共に頑張りまし
う」と訴えられました。

三七歳という若い弁護士でもある山添拓さ
んに、大いに期待したいですね。



映画「わが青春つきるとも」を観ての感想

(5月28日、岐阜市市民会館にて上映、主催:岐阜地区実行委員会)

○弾圧負けずにこんなに頑張った千代子さん、今の時代生きる私たちは、もともととどけることをやって、平和で皆が安心して暮らせる世の中にするために、真剣に生きなければ……

○この映画を創って下さった方々、上映を実現させて下さった方々本当に感謝しています。伊藤千代子さんの生き方に感動と勇気をもりました。平和で一人ひとりが大切にされる社会を！

○知らない人でした。久々に感動して観ました。昔も今も気を緩めると同じ時代が来るのではないかと思える今、とても良いときに観て良かったです。羽島でも開いてもらいたい。

○学ぶことの多い映画です。特高の恐ろしさ等を知りました。又、長野を訪れたいです。仲間にも観てほしいです。○映画にしてください、本当に良かった。歴史は一步一步創られていく。千代子の事、初めて知りました。頑張りたい。

○ビラを貼って追われたところを観て、この二〇〇〇年代にもビラを配って住居侵入罪に問われた件を思い起こしました。

○この映画を観て、今何をやるか。映画を観て、伊藤千代子の生き方を学ぶことにならない。

○主人公(千代子さん)が特高の圧力などを受けて精神的におかしくなっていく中で、ラストの方で在所のお母さんのなひとことに「千代子死ぬなよ」の一言でグツときた場面がありました。

映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯

上映実行委員会立ち上げを成功させましょう！

中濃支部 文告 ちづ

待ちに待った、映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」の上映が始まり、岐阜県でも五月二十八日第一回上映が岐阜市で始まりました。

治安維持法下の時代に自由と平和、真実を求め学習・活動した千代子が特高警察に捕らわれ拷問の結果二四歳の若さで命を奪われました。当時多くの活動家たちが弾圧・拷問によって殺されたが、女性への拷問は特別凄惨でした。映画の千代子への拷問映像に恐ろしさ、怒り、悔しさで心が折れそうでした。

権力に絶対負けない千代子の生き方に感動、千代子の志を受け継ぎ、再びあの暗黒政治を許さない活動が続けなければと思います。

今、日本の政治は右傾化し、自民・公明・維新は、再び戦争する国づくりに軍拡を推し進めようとしている危険な情勢の中で、映画を多くの人に観て貰いたいと思います。

この映画は自主上映ですから、私たち同盟が中心になり取り組みを進めます。そのために各地で「上映実行委員会」をつくる事を県の常任理事会で検討されました。

中濃支部は(関市・美濃市)(可児市・美濃加茂市)の二会場で上映する実行委員会を立ち上げました。郡上市も今後計画します。上映の成功と同時に、会員拡大にも取り組みたいと思います。

伊藤千代子の生涯学ぶ

岐阜市で28日、映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯(桂壮三郎監督)の上映会が行われ、約170人の市民が参加しました。上映運動実行委員会主催。

伊藤千代子(1905-1929)は、戦前の絶対主義的天皇制のもとで、国民が貧困に苦しんでいた時代に、日本共産党員として侵略戦争に反対し、特高警察による拷問の末に24歳の若さで亡くなりました。

片桐義之助実行委員長(治安維持法同盟岐阜本部会長)はあいさつで、「約100年前、治安維持法が

岐阜で映画上映会「党100年の歴史実感」



あいさつする片桐義之助
行委員長28日、岐阜市

の暗黒政治に自由と平和を求める声をあげ、特高警察による拷問、転向攻撃にも屈せず、犠牲になったのが伊藤千代子です」と紹介。ロシアのウクライナ侵略に垂じて「戦争する国づく

り」の動きが加速する中、「再び人権抑圧社会をつくらないためにも、この作品を多くの人にみてもらいましょう」と訴えました。

映画の終盤、千代子が「私は権力には負けない。転向しない」と叫んで亡くなり、仲間が「千代子姉さん、あなたの志は私たちが受け継いでいきます」と語る場面には、多くの人が目頭を押さえていました。

参加者から「共産党100年の歴史に、こうした犠牲の上にあることを実感しました。体制に負けない」との感想が寄せられました。

9月3日、岐阜市メデノアコスモスでも上映されます。

(* 6月1日付け、「しんぶん赤旗」より)

○岐阜県内では、岐阜、中濃、西濃、東濃西、恵那、飛騨など各地区で上映準備を進めています。

美濃・長森一揆！

岐阜支部 堀田 紀治

【はじめに：一揆に関わった安藤氏】

加納藩四代目城主安藤氏は領主の信成（のぶひら）の時、父信尹（のぶただ）の不行跡のため、一万五千石を没収され、宝暦六年（一七五六年）、陸奥磐城平に移封となりました。その後老中となった信成は、享和三年（一八〇三年）十一月美濃国内で一万八千石余加増され再び美濃との関係を持ちました。

平藩は美濃支配のため切通村（現岐阜市）に陣屋を設け、郡奉行二人、代官四人、与力五人、同心五人の二十二人を配置しました。

以来、七代、六七年に及ぶ支配を続け明治に至り廃藩と同時に廃止され笠松県に統一されました。平藩は、飛地支配のため問題が多く、文政八年（一八二五年）に、長森騒動と言われる農民一揆が起きています。

尚、切通陣屋は、長森城があった所で、川手城（岐阜市・済美高等学校）に移るまで、美濃

源氏の嫡流の居城でした。

【安藤氏の重税に農民決起！（長森一揆）】

一揆の直接の原因契機は、財政難に陥った平藩は、文政八年（一八二五年）、美濃一万八千石の領地農民に、二万五千両の御用金調達を命じたことでした。

江戸でこの膨大な調達金を命ぜられた元取総代四人は、これを断るため磐城平へ出かけますが、逆に承知させられました。

彼らは、この調達金の賦課（加税）方法に苦しみ、結局「殿様無人講」と称して五カ年間領内で高掛り（付加税の総称）出金し、さらに五〇歳から六〇歳までの男子一人につき、年に二度一歩ずつ出金させることで調達することにしました。

これを聞いた村々の庄屋はもろん断ります。が、これまた説得されて村に持ち帰り、村人の調印（了解）をとりはじめました。ところが日野村農民から反対の騒動がおき、元取役人は騒動の拡大を恐れ、日野村については無尽講掛金・人別金出金の両方を密に取り消す約束し騒動をしずめました。

それを知った周辺の村々が黙っているはずがありません。「我等一命限り御断申上ん」（命

に変えても断る）と結集しはじめ、水海道の正蔵坊という寺で惣元取・組元取と農民との間で交渉がもたれ激しいやりとりが行なわれ

した。その夜、文政九年（一八二六年）七月五日農民達は前一色山（現県医療センター南の小山）へ集まりはじめ、翌七月六日にはさらに大勢が集まり、一揆に加担しない「身勝手な人々へ直ちに押し寄せ、我等が難儀を救い金子借用致度（カンパをよ）せの意味」を要求すると共に「最早討手引き受け相果てるか」と覚悟のほどを決めて、粥を炊き酒を用意し、篝を焚いて陣を構えます。同じころ、長良川より西の村々でも一揆がおこり、十四条村の元取祐右衛門宅へ農民が押し寄せ、さらに川を渡って一色山の一揆に合流する気配、今や美濃領全域の一揆に発展する勢いとなりました。藩側や元取達はその対策に苦慮し、一時は藩の代官が、一揆勢と交渉しようとしたが、一揆勢と藩の与力とが渡り合う衝突が起き、交渉は不成功に終わりました。一揆勢の中には剣術を嗜む農民が少なからずいて、藩側は手づりました。

こうして一揆はますます高揚し、ついに笠松郡代が乗り出し、加納藩と、尾張藩岐阜役所（岐阜奉行か）に出動を命じ、郡代自らも川手まで出張しました。平藩側は、このよう

隣藩の武力的援助のもと、長森の市場二の鳥居で一揆勢と対面し、藩庁は、ついに農民の要求を受け入れ、殿様無人講を廃止しました。その後、一揆指導者・参加者の検挙・処罰が行なわれ、文政十二年（一八二九年）水海道村の幸四郎、北一色村の喜平をはじめ、野一色・前一色・岩戸・岩地・蔵前を加えた七か村の農民約百人が捕らえられ、七人が牢死しました。

【最後に：訴えます！】

先人達は、「座して死すか刺して死すか」の覚悟で決起しています。現在、主権は国民にありそれを行使する選挙権を持っています。

残念なのは、投票率が低く主権者の4分の1の支持で政権が成り立っていることです。有権者の4分の1の支持で悪政の限りを尽くされてはたまったものではありません。

「一票は微力ではありますが無力ではありません」

日本国民自覚せよ！

主権が国民にあることを！

日本に生まれた人ならば勇気持たんせ起きなんせ！

改憲するなと声上げよ！

目にも見せよう参院選！

一票一揆に加担せよ！

夢の山 マッターホルン

中濃支部 澤田善太郎

広辞苑で、ハイキングとは「自然に親しむため山野などを歩くこと」で、それをする人を「ハイカー」といいます。そのハイカーであつたばかりが、こともあろうにマッターホルンに登りたいなどと真剣に考え始めたのは、定年退職後の間もなくで、第2の仕事に就きたした1996年、62歳の時でした。

道遠しとは思つたけれど、先ずは実物をこの目で見た

と思ひ、渡欧してそれを実行しました。ヘリに乗り岩壁を下から上へ舐めるように上

たり、周囲をぐるぐる回つたり、周りもしました。そしてこれを登る事が出来る体力と技術の基礎を身につけるため、本格的な準備を考え、日本アルパイン協会に問い合わせ、東海関係のガイドを何人か紹介してもらい、鈴鹿・御在所岳を拠点にしておられるM氏にアポをとって相談しました。

週4日勤務の仕事しながら岩・雪・氷の本格的技術を身につけるには、どうしても2年間が必要でした。そしてできればもう一人誰か仲間がほしいと考え、大学山岳部で岩や雪もや

っていた同じクラブ仲間のF氏に話し、積極的賛意を得て、ぼくは貧しさにも耐えながら希望に燃え、二人で一緒にトレーニングを開始しました。御在所岳の岩壁、岩尾根、沢へは11回通いました。その中には厳冬のルンゼでのアイスクライミングや、岩壁・岩尾根でのアイゼン登攀、雨の日の濡れた岩登りもありました。また12月中旬の八ヶ岳ジョウゴ沢、裏同心ルンゼ等のアイスクライミング、1月中旬の八ヶ岳赤岳主稜登攀。その他ぼくは富士山へはこの間3回、四日市での人工壁登攀、北ア剣岳・ハツ峰の残雪期登攀等もいたしました。



1998年7月中旬、ガイドのMさんと仲間のFさん、ぼくの3人で日本を出発しました。

高度、気象、山のコンディション等を考えると期間はどうしても一ヶ月は必要でした。ぼくは休暇を願ひ出るのが心苦しかったけれど、理解と了解がいただけほっとしました。

Fさんも夏場の事業で最盛期に一ヶ月は大変らしかった。スイスへ入ってからマッターホルンの麓の村ツェルマットへ行くまでもう3つの4000m峰へ登り高度順応をはかりました。

天候は7月30日頃になっても安定せず、村にはガスが低く垂れ込めて薄暗く、雷も鳴っていました。山ではかなりの積雪になっているのだろーと思われました。仮に今すぐ天気が回復したとしても少なくとも数日間氷雪状況が悪くて登れぬだろうとのことでした。

ぼくらは少々悲観的にならざるを得ませんでした。何日間というものの、やむを得ず村中の店をのぞいて歩いたりしていました。日にちはどんどん過ぎていき、スイスへ来てからはもう半月を過ぎてしまいました。

ぼくはもう、うずうずする気持ちのやり場に困り、もしダメになるのだたら…との思いもあつて、3日間をかけてアルプス第2の高峰で、スイス最高峰のモンテローザ登山を決定しました。Fさんは体力温存のため行かないと言われました。それでも8月に入ってから少しづつ乍ら天候回復の兆しが出てきました。「よし8月9日

に決行しよう」と、3人で合意し体制を整えました。

出発点になるヘルンリヒツテから山頂までの標高差は1218mで、そこを日帰りで登降するのが原則です。中間点に緊急避難用のソルベヒツテがありますが、これは岩の窪みに取り付けられた小さな小屋で、北壁を登つて下る人や、悪条件下で下山困難な人のためのもの、一般登山者は使用できません。またこの山では、ガイドと客のマッシーマンが原則で、ぼくらの3人パーティーは少々異質でした。

気象条件は少し上向きになってきました。初登頂のウインパーら7人パーティーのうちの4人が滑落死したのはこの辺りかという難場には太い固定ザイルが断続的に取り付けられています。コースの終盤は、北壁側の氷雪で白く見えるあの斜面でした。そしてついにスイス側の頂上へ。ブロンズ像のマリア様が建てられていて、真

の頂上はそこから数メートル上を10m位行ったところの雪稜でした。ちょうど午前10時、3人パーティーのため少し時間が

かかり、きつかり6時間という登攀でした。空は快晴に近くなり、アルプスの大パノラマが展開し、先日登ったばかりのモンテローザもまぶしく光っていました。

恩人Oさんのこと。

ぼくが丁度トレーニングを開始していた頃、「赤旗」だったと思いますが、マッターホルンに登られた方が出ていて、その方は北アルプスの屏風岩にも登っておられると記してあった記憶です。ぼくは手紙を出して教えを請いました。そしたらそれまでに研究し集約された分厚い資料の束をどつさり送って下さって、ぼくのこの山に関する認識が豊富になり、大きな力となりました。まだ直接お会いしたことがないので、そのOさんが実は治安維持法同盟の幹部の方であることをつい最近知りました。是非いつかお会いしてかつての御礼を改めてしたいと思っています。



「アルプス登攀記」木版画挿絵より、
ウインパー著、1871年7月出版、
マッターホルン初登攀

1865年7月14日午後1時40分
下山中7人の内4人が遭難